

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

1. 事業の概要

事業名称	BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～
事業の目的	<p>①日常生活に必要な日本語を学び取得する機会を提供し、定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。</p> <p>②公的機関、企業、住民等に連携を働きかけ、時代とともに多様化している外国人の来日背景や在留資格を、地域全体で理解すること。</p> <p>③初期適応支援として、また地域住民と意思疎通を図るための日本語学習の場として、「体験型の日本語教室」を実施すること。</p> <p>④教室時間外でも日常生活に必要な日本語を習得できるよう、自律学習の必要性を伝えること。</p> <p>⑤日本語がわからないことで生活に支障が出るようなケースについて対応できる、地域で活躍できるバイリンガル人材を支えること。(国籍問わず)</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>○当地域の定住フィリピン人の変遷、多様化</p> <p>フィリピン人で形成するコミュニティの形状が、時代とともに変容しつつある。当法人は、かつて興行で来日したフィリピンの女性達が日本の男性と結婚し、家庭や社会で生活するうえにおいて、日本語や日本文化がわからない、どうして生活するかという悩みを同胞の仲間が助け合う(ナガイサ)ために集まったことから始まった。日本での生活が安定すると、次に母国に残してきた前夫との間に生まれた子供を呼び寄せるようになり、そのことは現在も続いている。いっぽう少し遅れて、まったく別の背景を持つ人々が来日するようになった。それは日系人である。彼らは仕事を求めて来日するが、家族や親族を伴って同じ地域に集住する傾向にある。この人たちの年齢は乳児から高齢者まで、多岐にわたっている。</p> <p>そして近年、外国人受け入れ拡大への制度変更に伴い、当法人の活動にも技能実習生が加わるようになってきた。彼らは同胞のロコミでやってくるというよりも、日本人のオーナーに週末の過ごし方を心配され、連れて来られることが多い。</p> <p>このように同じフィリピン人であっても、来日事情の分散と複数の環境要件を併せ持ち、様々な背景の人々が本地域には混在している。こうした状況に対して、当法人は彼らのニーズとレディネスを把握した上で教室設置をしてきたが、近年はSNS上にもコミュニティが無数に存在し、実態が見えない生活者も出始めており、社会の一員に取り込めずにいる。あらゆる方法でこうした人たちに日本語教育の機会を与え、社会に橋渡しできるようにしていきたい。</p> <p>○「体験学習」と「初期適応支援」の必要性</p> <p>上述のフィリピン人の多くは、「日本語力がほとんどない」「日本社会と接点がありません」「社会の仕組みを学び、経験する機会を母国でも逸している(フィリピンの学校には社会科見学が無い)」といった不安と事情を抱えているが、実際には日本に定住する傾向が強く、日本社会を支える存在になっている。当法人は「彼らの日本語をはじめとする教育は必須である」と考えている。これは、日本社会に生活する上でのいわば「初期適応支援」の役割を担っている。</p> <p>また「体験学習」を通して、関わる日本人に共生社会への理解を促進していきたい。</p> <p>○生活しやすい福祉サービスの向上とバイリンガル人材のあり方</p> <p>私達のところにはフィリピン人からの相談はもとより、日本社会の中でフィリピン人と接することが増えてきた公的・民間機関からの相談も後を絶たない。こうなると言葉だけで対応できる範囲を超えており、散在している様々な問題の実態把握、専門的な知識、関係諸機関との連携が欠かせない。また、今後、外国人労働者が増え、労働環境への不満が顕在化すると、弁護士、税理士、社会保険労務士、行政書士といった「士業」の方々との連携も欠かせないが、こうした分野は難しく複雑な案件が多く、通訳者の負担は大きい。しかし、定住外国人の多様化という背景から、様々な相談に応じられる人材の確保、教育、あり方は今後も検討していく必要がある。</p>
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	<p>●日本語教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者に自己学習を推進した。 ・日本人との交流を図り、社会と接点を生むような体験を伴って日本語を学んだ。(外国人と日本人が相互学習となる場を提供した) ・体験学習を通して、日本語力とともに生きる力を醸成した。 <p>●人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人を取り巻く環境を地域に発信するような内容で、人材育成講座を実施した。 ・委員会を設置し、さらに地域における相談通訳者の人物像を探った。必要な日本語能力についても検討した。 ・やさしい日本語のみならず、支援者が初期適応で役立てられるタガログを学び、日本人の側にも歩み寄り、学ぶ場を提供した。 <p>●教材作成</p> <p>地域で暮らすフィリピン人が知っておくべき日本語や生活情報を盛り込んでテキストを作成した。教材は当法人のホームページやSNS上に掲載予定(ホームページ調整中)</p>
事業の実施期間	2019年5月～2020年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	櫻井敬子	浜松市教育委員会学校教育指導課主幹 教育総合支援センター 外国人グループ長
2	佐藤宏明	浜松市企画調整部 国際課 課長
3	鈴木エバ	特定非営利活動法人フィリピンナガイサ 静岡県立浜名高等学校定時制・浜北高等学校 定時制 タガログ語支援員 外国人児童生徒就学サポーター
4	清ルミ	常葉大学 外国語学部 教授
5	高貝亮	浜松綜合法律事務所 弁護士
6	長谷川敏久	静岡県くらし環境部 県民生活局 多文化共生課 課長
7	半場和美	特定非営利活動法人フィリピンナガイサ 事務局長
8	村松正利	村松正利行政書士事務所 行政書士
9	湊健一郎	税理士法人黎明祖父江会計事務所 執行役 員、 湊健一郎社会保険労務士事務所 代表
10	吉開章	株)電通 新聞局日本開発室 エリアソリューション部 シニア・マネージャーThe日本語Learning Community主宰



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年6月27日(木) 9:00~11:00	2時間	第一伊藤ビル4階会議室	清ルミ、湊健一郎、高貝亮、村松正利、長谷川敏久、佐藤宏明、鈴木エバ、半場和美	事務局が提案した令和元年度事業の計画について、委員より助言をいただいた
2	令和元年6月27日(木) 9:00~11:00	2時間	第一伊藤ビル4階会議室	湊健一郎、高貝亮、村松正利、佐藤宏明、櫻井敬子、吉開章、鈴木エバ、半場和美	事務局から中間報告をし、それらについて意見をいただいた。
3	コロナウィルス感染拡大防止のため「中止」	—	—	—	—

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>日本語教室の学習者募集に近隣の国際交流協会、県西部の市町・国際課、浜松市教育委員会、近隣のNPO法人団体、日本語教育支援団体、地域の企業、教会、フィリピン雑貨店・レストラン等に協力を仰いだ。クラス 終了後も日本語学習を継続してもらうために、ニーズにあった地域のほかの日本語教室もあわせて紹介した。</p> <p>日本語教室の体験学習の協力先に、遠州鉄道株式会社、浜松科学館、スズキ歴史館に依頼した。</p> <p>人材育成の参加者募集に、浜松市国際課、市民協働課、UD男女共同参画課、浜松国際交流協会、公民館、近隣のNPO法人、日本語教育支援団体、企業、これまで協力してくれたボランティアに協力を仰いだ。</p> <p>人材育成のあり方について検討する会議を実施し、会議で検討した内容を令和2年度以降の活動に活かしていく。</p>
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ●半場和美 全取組の整合性を図りながら、内部と外部(文化庁、行政、地域の関係機関、指導者、講義補助者、作業補助員等、調査関係者)とを調整し、地域の連携を促進した。円滑な事業遂行のため、全体の指揮を行った。 ●松本義一 主に指導者を担当する。また、当該地域の行政、学校関係者、支援者たちを集めた人材育成講座や運営委員会では「フィリピン人の特性を考慮したサポートについて」助言した。 ●鈴木エバ 主に指導者と通訳・翻訳を担当した。運営委員会では、フィリピン人の委員として意見を寄せた。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称： バヤニハン日本語教室】										
目的・目標	地域に暮らすフィリピン人が実生活で困らないよう、「体験型の日本語教室の展開」や「自己学習のHow toについて教授する」こと。 (自律学習の必要性を伝えていく)									
内容の詳細	下記、学習した。 自己紹介(会話、住所と名前の書き方)、識字(ひらがな、カタカナ) 日本の公共交通機関の乗り方と必要な日本語 浜松市の施設利用と必要な日本語 「ものづくり(製造業)」の全体像と必要な日本語 減災指導と必要な日本語、進路について必要な日本語 症状や病院に関連する必要な日本語 買物について必要な日本語 そのほか、サバイバルで身につけた日本語を補完するために生活漢字や文字語彙、文法を少し取り入れた									
実施期間	令和元年5月11日～令和二年3月19日			授業時間・コマ数			中区クラス 1回 2時間 ×27回 =54時間 (2/29、3/7、3/14は中止) 浜北クラス 1回2時間×6回=12時間 中区クラス・浜北クラス(計)66時間			
対象者	フィリピンを中心とした定住フィリピン人			参加者			総数60人 (受講者 51人, 指導者・支援者等 9人)			
カリキュラム案活用	・カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を参考に体験学習の内容を決めた ・日本語指導者は「ガイドブック」を読み、「指導力評価のPDCAサイクル」をもとに実施した。 ・体験学習のための事前ワークシートや、体験学習に持参のワークシート、活動後の振り返りワークシートでは、教材例集の構成を参考にして、オリジナル教材を作成した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
									51	11
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
中区1	令和元年5月11日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	16	事前学習①	自己紹介 ①氏名・住所の発表 ②氏名・住所を書く練習	松本義一			
中区2	令和元年5月18日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	16	事前学習②	ひらがな ①読み方 ②書き方	松本義一	白方ジョイ(指導補助)		
中区3	令和元年5月25日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	20	事前学習③	カタカナ ①読み方 ②書き方	松本義一	白方ジョイ(指導補助)		
中区4	令和元年6月1日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	21	6月トピック「公共交通機関」	①日本の公共交通機関 ②電車で行く主要施設を知る、名称を読む	松本義一	白方ジョイ(指導補助)		
中区5	令和元年6月8日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	15	遠鉄バスでHICEに行く方法を学ぼう	①浜松市内のバス(遠鉄バス・くるる) ②バスで行けるところを知る ③HICEへ行く方法を学ぶ、目印の名称を覚える	半場和美	白方ジョイ(指導補助)		
中区6	令和元年6月22日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	14	体験学習「バスに乗ってHICEに行こう」	①ナイスバスを作る、申込書を書く ②バス乗り場を探して、バスに乗る ③目的地到着後、帰りは電車で帰る	半場和美	白方ジョイ(指導補助)		
中区7	令和元年7月6日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	8	7月トピック「浜松市の施設を利用しよう」	①6月トピックの振り返り ②日本の地理と名称を知る ③浜松の地理と名称を知る	半場和美	白方ジョイ(指導補助)		
中区8	令和元年7月20日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	9	施設の利用方法を知ろう	①浜松市の施設を知ろう、名称を覚える ②施設の利用方法	半場和美	白方ジョイ(指導補助)		
中区9	令和元年8月3日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	7	施設利用の申込みをしよう	①申込みウェブサイトの利用方法 ②窓口での利用方法(南部協働センター)	松本義一	-		
中区10	令和元年8月24日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	7	上半期の復習	①ひらがな・カタカナ ②浜松市の公共交通機関 ③浜松市の地理・施設	松本義一	-		
中区11	令和元年8月31日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	7	9月トピック「ものづくり体験」	①体験授業の振り返り ②浜松市のものづくりを調べよう	松本義一	-		
中区12	令和元年9月7日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	5	ものづくりの言葉	①道具の言葉 ②形・色を表す言葉 ③動作を表す言葉(切る、押す、練る、作る etc)	松本義一	白方ジョイ(指導補助)		
中区13	令和元年9月14日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	7	体験学習「スズキ 歴史館」	①スズキ 歴史館まで電車で行く。(6月トピックの復習) ②浜松のものづくりの歴史について学ぶ	松本義一	白方ジョイ(指導補助)		
中区14	令和元年9月21日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	10	ものづくり体験	①ものづくりの言葉(形や動作の表現)を復習 ②日本語の説明書を見ながら、「紙粘土」で形を作る	松本義一	白方ジョイ(指導補助)		

中区15	令和元年10月5日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	5	10月トピック「防災について考えよう」	①災害の言葉を学ぶ ②防災の漢字を学ぶ	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区16	令和元年10月19日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	6	防災ニュースを聞いてみよう。	①防災の言葉・漢字の復習 ②実際の防災ニュースを聞いてみて、大事な言葉・情報を確認する	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区17	令和元年10月26日(土) 13:30~15:30	2	福祉交流センター	7	防災マップを作成しよう。	①防災マップを作成する	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区18	令和元年11月2日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	6	防災マップを使って、プレゼンテーションを行おう	①防災マップ作成の続き ②プレゼンテーションの準備 ③プレゼンテーションの実施	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区19	令和元年11月16日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	8	11月トピック「進路について考えよう」	①日本の教育制度を知る ②日本の学校について知る ③受験、進学関連の用語を覚える	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区20	令和元年11月30日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	7	高校受験について知ろう	①子供・自分自身の進路について考える ②日本の高校受験を知る	松本義一	-
中区21	令和元年12月7日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	5	高等教育について知ろう	①専門学校、大学、短大を知る ②進学の費用、進学後の生活を考える	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区22	令和元年12月21日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	5	復習	①9月トピックの復習 ②10月トピックの復習 ③11月トピックの復習	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区23	令和二年1月11日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	7	1月トピック「病院の利用方法について知ろう」	①体の部位の日本語を学ぶ ②症状を伝える日本語表現を学ぶ ③筆を使って文字を書く…新年の活動として	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区24	令和二年1月18日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	自宅付近の病院を調べよう	①病院の「〇〇科」の種類を知る ②スマホを使って自宅付近の病院を調べる	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区25	令和二年1月25日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	7	自宅付近の病院をまとめよう	①自宅付近の病院をワークシートにまとめる ②ワークシートの発表	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区26	令和二年2月1日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	8	2月トピック「お得に買い物をしよう」	①日常生活で目にするものの名前を知る ②家電量販店のチラシを見てみよう	松本義一	白方ジョイ(指導補助)
中区27	令和二年2月22日(土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	5	ポイントカード・スマホ決済について知ろう	①お互いの知っているお得な買い物について話し合う ②ポイントカードやスマホ決済について知る	松本義一	-
中区28	令和二年2月29日(土) 13:30~15:30	コロナウイルス感染拡大防止のため中止						
中区29	令和二年3月7日(土) 13:30~15:30	コロナウイルス感染拡大防止のため中止						
中区30	令和二年3月14日(土) 13:30~15:30	コロナウイルス感染拡大防止のため中止						
浜北1	令和元年6月8日(土) 13:30~15:30	2	浜名協働センター	7	事前学習①	自己紹介 ①氏名・住所の発表 ②氏名・住所を書いてみよう	鈴木エバ	松本義一(指導補助)
浜北2	令和元年6月22日(土) 13:30~15:30	2	浜名協働センター	7	事前学習②	ひらがな ①読み方 ②書き方	鈴木エバ	松本義一(指導補助)
浜北3	令和元年6月29日(土) 13:30~15:30	2	浜名協働センター	7	事前学習③	カタカナ ①読み方 ②書き方	鈴木エバ	松本義一(指導補助)
浜北4	令和元年7月6日(土) 13:30~15:30	2	浜名協働センター	7	「防災について考えよう」	①災害の言葉を学ぶ。 ②防災の漢字を学ぶ	鈴木エバ	松本義一(指導補助)
浜北5	令和元年7月20日(土) 13:30~15:30	2	浜名協働センター	7	防災ニュースを聞いてみよう。	①防災の言葉・漢字の復習 ②実際の防災ニュースを聞いてみて、大事な言葉・情報を確認する。	鈴木エバ	松本義一(指導補助)
浜北6	令和元年7月27日(土) 13:30~15:30	2	浜名協働センター	7	防災マップを作成しよう。	①防災マップを作成する。	鈴木エバ	松本義一(指導補助)

○取組事例①

【第8回 令和元年7月20日】「浜松市の施設を知ろう」

気になる施設をクラスの中で話し合い、その施設概要を調べて日本語で共有した(施設名称、開館時間、休館日、料金、所在地など)。作業には、日本人ボランティアの方にも協力をいただいた。



○取組事例②

【第13回 令和元年9月14日】

浜松市は製造業の街であり、とくに家族が何かしらの車の部品製造の仕事に従事しているという人も少なくない。このように車の製造工程の一部を担ってはいるが、車一台が企画され市場に出るまでにはいくつもの段階がある。その製造工程の全体像を知ることが出来るよう、スズキ歴史資料館へ行った。指導者が作成したワークシートを見ながら、施設を回り、必要な語彙を書き出すという学習を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

当法人が独自に実施したテーマ終了ごとのアンケートでは、「覚えた日本語の数」とあわせて、実生活において「できるようになったかどうか」を学習者に聞いた。自己診断の達成度はそれほど低いものにはならなかった。事務局が選んだテーマについても概ね良好という結果が得られた。またフリーコメント欄には、学習者から、「はじめて聞いた」「はじめて勉強した」「新しいことがいっぱいわかってうれしかった」という声が多く聞かれた。日本語教室が「生活者としての外国人」にとって、日本社会の入口であることが見て取れる回答の数々だった。教室設置は継続性が必要であることが分かった。

(3) 今後の改善点について

日本社会の中で、彼らを求めているフィールドが非常に少ないと感じている。企業からの要望は強いが、就労者ではなく生活者として、例えば消費者・施設利用者として定住外国人を取り込むところがまだ少ない。また、就労の観点で言うと、日本語能力検定試験の取得級が採用基準の多くを占めているということがあり、「自立した生活ができる日本語力」と「日本社会が望む日本語力の示し方」がうまくかみ合わない。本教室に来ている生徒は検定試験を受験するにはハードルが高いと感じていたり、本人に受験希望がない者も多い。今後はより一層他事業と連携し、日本語能力を補完するための段階を細かく設けていく必要がある(「来日直後のレベル(Can-do中心)」「これまでサバイバルで身につけた日本語をブラッシュアップするような文法を学び、日本語能力検定試験の受験を想定したクラス」「就労に向けた準備のクラス」)

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:人材育成講座～定住外国人を取り巻く環境を知る～】

目的・目標 ●公的機関、企業、住民等に連携を働きかけ、時代とともに多様化している外国人の来日背景や在留資格を、地域全体で理解するような内容の公開講座を実施すること。
●講座は、日本語がわからないことで生活に支障が出るようなケースについて対応できる、地域で活躍できるバイリンガル人材を支えられるような内容にすること。

内容の詳細 ●支援者が定住外国人を取り巻く環境を知り、また支援のスキルを自己研鑽するため、次の内容を実施した。
・5月11日 定住外国人のための生活情報(公益財団法人浜松国際交流協会・松岡真理恵)…2時間
・6月29日 外国人を取り巻く労働問題(弁護士・長野修一)…2時間
・7月31日 やさしい日本語の新しい世界(やさしい日本語ツーリズム研究会・吉開章)…2時間
・8月3日 フィリピンの子供達のアイデンティティ維持と日本の幼稚園教育(ネストールプノ/田中寛美)…2時間
・8月17日 やさしいタガログ語(中村グレイス、杉山ダーリン)…3時間
・9月21日 フィリピンの教育事情(足立ネルマ)…2.5時間
・10月26日 給与明細の見方と確定申告(税理士・澤谷智志/社労士・湊健一郎)…2時間
・11月8日 浜松市の水害対策(浜松市危機管理局)…2時間
・1月25日 通訳士のスキルアップと心構え(静岡県立大学教授・高畑幸)…2時間
・1月27日 外国人雇用基礎セミナー(浜北商工会/行政書士・古橋洋美/松本義一)
・2月10日 やさしいタガログ語(鈴木エバ/白方ジョイ)…2時間
・2月15日 静岡県の地震対策(静岡県多文化共生課)…2時間

●定住外国人と日本社会からの相談に応じられる日本語能力について考える委員会
委員には、
高畑幸氏(静岡県立大学 国際関係学部 准教授/浜松外国人市民共生審議会委員長)
松本義一(NPO法人フィリピンナガイサ副理事長)
松岡真理恵氏(公益財団法人浜松国際交流協会)
村松辰芳(浜北商工会会長)
古橋洋美(行政書士)

実施期間 令和元年5月11日～令和二年2月15日 授業時間・コマ数 講座(1回 2時間 × 8回)+(3時間+4時間)+ (1回 2.5時間×2回)+委員会(2時間×3回) 上記のほか、3月7日は2時間予定していたが中止した

対象者 滞日年数の長い定住外国人、日本人支援者、公的機関職員、企業担当者等 参加者 総数60人 (受講者 51人, 指導者・支援者等 9人)

カリキュラム案活用 カリキュラム案で本事業の目的と趣旨を十分に理解した上で、公開講座を実施した。

使用した教材・リソース

受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			4					1	107	110

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年5月11日(土) 14:00～16:00	2	南部協働センター	12	定住外国人のための生活情報	浜松市のウェルカムパックとは? 自治会とは?	松岡真理恵	白方ジョイ(講義補助)
2	令和元年6月29日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	13	外国人を取り巻く労働問題	定住外国人によくある労働に関する法律相談から見えること	長野修一	白方ジョイ(講義補助)
3	令和元年7月31日(水) 14:00～16:30	2.5	地域情報センター	43	やさしい日本語の新しい世界	やさしい日本語とは/AI多言語翻訳機とやさしい日本語の関係	吉開章	-
4	令和1年8月3日	2	南部協働センター	7	子ども支援について考える	子どもたちのアイデンティティの確立を考える/日本の幼稚園に通うことの意義	ネストールプノ 田中寛美	鈴木エバ(講義補助)
5	令和元年8月17日(土) 13:30～16:30	3	福祉交流センター	14	やさしいタガログ語	クッキングを通して、子どもたちに接しながらやさしい日本語を実践する	中村グレイス 杉山シルバーナ	-
6	令和元年9月21日(土) 10:00～12:30	2.5	南部協働センター	18	フィリピン現地の教育・社会事情	フィリピンの教員に実施したアンケートをもとに、現地の教育現場の声と方針などを学び、来日した子どもたちの支援に活かす	足立ネルマ	-
7	令和元年10月26日(土) 13:30～15:30	2	福祉交流センター	7	給与明細の見方と年末調整・確定申告	相談員が普段うける相談や、相談時における悩みなどを聞く/日比社会保障協定	澤谷智志 湊健一郎	鈴木エバ(講義補助)
8	令和元年11月9日(土) 13:30～15:30	2	南部協働センター	24	水害への備えと対応	ハザードマップの見方、水害時の対応	浜松市危機管理局	鈴木エバ(講義補助)
9	令和二年1月25日(土) 10:00～12:00	2	南部協働センター	16	通訳・翻訳のスキルアップと心構え	通訳時の注意点や手法を学ぶ	高畑幸	-

10	令和二年1月27日(月) 15:00~17:00	2	浜北商工会	15	外国人雇用基礎 セミナー	多文化共生社会とは／浜松市にお ける定住外国人の人口動態と在留 資格の状況／定住外国人の日本語 の状況	古橋洋美 浜北商工会 松本義一	-
11	令和二年2月9日(土) 10:00~12:00 13:30~15:30	4	クリエート浜 松	90	やさしいタガログ語	学習者との心理的バリアがなくなる よう、フィリピンの文化や言葉を学ぶ ／やさしい日本語の体験	白方ジョイ 鈴木エバ	-
12	令和二年2月15日(土) 10:00~12:00	2	静岡県総合 庁舎／クリ エート浜松	13	震災への備えと 対応	非情持ち出し袋の中身、起震車乗 車、非常食といったものを体験を通 して学ぶ	静岡県多文化共 生課／静岡県西 部地区危機管理 課	-

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 令和元年7月31日】やさしい日本語の新しい世界

前半: 座学で「やさしい日本語概論」「やさしい日本語とAI翻訳の親和性」

後半: やさしい日本語のワークショップ。実際にある自治体の防災チラシをAI翻訳を使って「やさしい日本語」に直す。このときの気づきを各グループでシェアした。NICTのVoiceTraは、やさしい日本語の自己トレーニングとしても有効的に使える無料のアプリケーションソフトであることを周知し、どんどんやさしい日本語をブラッシュアップして使ってほしいということをPRした。



○取組事例②

【第6回 令和元年9月21日】フィリピン現地の教育事情

本講義に際し、講師がフィリピン現地の教職員に事前アンケートを実施し、その内容を発表・分析して話してくれた。浜松市はフィリピン人が4000人ほどおり、その支援にあたる人も多い。これまでは雑談レベルでの共有だったが、今回現地の情報を聞く機会を持つことで支援を建設的に進める足掛かりが得られた。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケートには受講者それぞれが「自身の現場に持ち帰って活用できる」という回答も多く聞かれた。特に「やさしい日本語の新しい世界」では、フリーの回答の数々からやさしい日本語への関心の高さがうかがえた。また、「フィリピンの教育事情」については、当法人以外のところで発信することは難しい内容だったのではないかなと思う。その意味で、当法人の地域における期待や役目が明確になった講座でもあった。

(3) 今後の改善点について

本講座は日本語教師はもとより、「定住外国人を取り巻く環境を知る」という内容にすることで、さまざまな機関(行政、企業、市民)からも関心が高く参加に結びついている。外国人は単に日本語を覚えればよいということではなく、日常生活のあらゆる場面での受け入れを想定していかなければならない。そのため日本語教師は、外国人の置かれている状況を知るとともに、生活に必要な情報、どういったときに日本語が必要になるかということに至るまで把握し、日本社会に橋渡しできる力が求められる。当法人としては、日本語教育の出口(日本社会と接点)というものが、より明確になるような事業内容にし、生活に関わる日本語教育のカリキュラム作成、体制作りを両輪で加速させていく必要を感じている。なお、やさしい日本語については行政職員からの関心が非常に高かった。各区役所の特に窓口担当者が積極的に参加されていた。これは、実際に窓口業務の中で「困っている」という事実がすでに生じていたためだと思われる。しかし、やさしい日本語の行く末は、市民レベルに広がると良いと考えるがまだ波及が弱い。この要因を考えてみたが、おそらく市民レベルでの交流があまり進んでいないため、日本人のほうに「通じないから困る」という感覚があまりないのかもしれない。つまり、「外国人と話すような場面に遭遇しない」ので、そもそも必要性を感じていないのではないだろうか。当法人は市民レベルへの「やさしい日本語」の周知を目指しているが、「やさしい日本語を知らない」という人が実に多く浸透が難しい。今年度は、「行政職員自身が困っているから参加に繋がった」というケースが多く挙がったので、このプロセスを参考に、市民間においても「外国人と日本人が交流する場」を積極的に作っていきたい。次にやさしい日本語の存在を改めて周知できるよう、段階を分けて社会に提示したいと考える。まだ、やさしい日本語を地域の共通の課題として認識するには不足点が多いが、地域全体として前身していくよう進めていきたい。その意味で、今後は目的に向けて進めていく手順、ステップとしての目標をもう少し細かく設定していこうと感じた一年であった。

日本語教育のための学習教材の作成 【 教材の名称 : FNT(フィリピンナガイサ テキストブック) 】

目的・目標	地域で暮らすフィリピン人が知っておくべき生活情報や日本語を自ら進んで学んでいけるよう、「調べ物学習」の形で学べるテキストを作成する。またテキスト内には役立つ学習情報なども記載し、学習者の自主学習(自律学習)をサポートする仕組みも備える。		
内容の詳細	以下のテーマについて、関連する日本語や地域情報を学んでいけるテキストを作成した。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療(浜松の医療機関を知る) ・交通機関(浜松の地理を知り、公共交通機関を利用する) ・防災(静岡県や浜松市の災害時の対応を学ぶ) ・旅行(日本の地理を知り、暮らしを楽しむ) ・仕事(浜松の産業である「ものづくり」を知る) ・自律学習の方法 ・公共施設(浜松の公共施設の利用方法を知る) そのほか、生活に必要なもの、サバイバルで身につけた日本語を補完できるよう文字、語彙、生活漢字などを入れた。		
実施期間	令和元年5月11日～令和二年3月20日	作成教材の 想定授業時間	1回2 時間 × 30 回 = 60 時間分
対象者	定住フィリピン人	教材の頁数	99
カリキュラム案活用	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を参考にした。 ・カリキュラム案やガイドブックで、本事業の趣旨と目的を理解したうえで教材を作成した。 		
事業終了後の教材活用	当法人のホームページへ掲載し、広く活用してもらおう。当法人としてはFacebookグループに掲載し、授業時間外にも浜松に暮らすフィリピン人が自由に見ることが出来るような状態にしている。質問等あった際には、SNSの中で対応している。		
成果物のリンク先	http://filipinonagkaisa.org/		

なか
中

施 設 (しせつ)

Public	Private
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 公共 施設 () </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 民間 施設 () </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; width: 100%;"> 国立 () 県立 () 市立 () () </div>	

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ①日常生活に必要な日本語を学び取得する機会を提供し、定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。
- ②公的機関、企業、住民等に連携を働きかけ、時代とともに多様化している外国人の来日背景や在留資格を、地域全体で理解すること。
- ③初期適応支援として、また地域住民と意思疎通を図るための日本語学習の場として、「体験型の日本語教室」を実施すること。
- ④教室時間外でも日常生活に必要な日本語を習得できるよう、自律学習の必要性を伝えること。
- ⑤日本語がわからないことで生活に支障が出るようなケースについて対応できる、地域で活躍できるバイリンガル人材を支えること。(国籍問わず)

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

他事業、とくに当法人が静岡県から委託した職業訓練との連携が新たな広がりを見せた。本事業では生活の入口としての役目を担い、滞在年数の長い人々には、サバイバルで身につけた日本語をブラッシュアップしたり就職に特化した内容を学ぶところへ橋渡しした。これにより日本語教育をきっかけに、浜松市に住む4000人ほどのフィリピン人にアクセスすることを可能にした。さらに、日本社会への周知としては人材育成事業の実施と運営委員会をしっかりと組織できていることが非常に大きな追い風となっている。外国人コミュニティという立場で、真に必要なことを声として挙げられることや、必要な講座を社会教育として取り上げることができた。引き続き、内容を精査しながら取り組んでいきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

年々外国人の増加に伴い、日本語教育も変化を求められているものとする。日本語教育が必要な現場は今後ますます地域社会が増えていくものと思うが、そう考えたとき単なる語学教師だけでは務まらないと思う。日本語教育にあたる人材については、従来の支援者、指導者の枠を超えてコーディネーター的な能力をあわせて指導していく必要を感じている。指導者や支援者については各所で養成が行われている。しかしながら、コーディネーター的な視点をもって養成される場所は地方だと少ない。留学生、技能実習生は所属機関があつての指導者となるが、地域の場合は実態がつかみづらい外国人を、どうやって一人でも多く教室活動に参加を促すのかということから始めなければならない。こうした点が、カリキュラム案の「日本語教育人材の養成・研修のあり方」の中に役割ごとに明記されているので、引き続き事業実施の参考にしていきたい。日本語教育関係者の活躍の場は日本語学校や日本語教室の外でも求められていく時代になっており、その社会的意義にも言及するような講座を展開したい。なお、こうした取組の参加者で異業種の方から「日本語教師の資格を取るためにはどうしたらいいですか」という問い合わせも実際増えている。これは企業の人事担当者や士業の方からであるが、彼らが日本語教師の資格を持つと、彼ら自身の仕事の幅が広がるばかりでなく日本語教育全体としても確固たる協力者になっていく。日本語教育に従事する人の裾野を広げる意味でも、カリキュラム案の活用には日本語教育に携わる人を限定しないよう、配慮していく。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

人材育成事業は様々な日本語教育関係者(地域の教室、日本語学校、技能実習生管理団体など)はもとより、行政職員、企業、市民にも多く参加を呼び掛けた。活動を広く周知することで、地域のパイロット的な団体としての役目としての相談も増えている。設立当初はフィリピンによる自助努力団体であったが、外国人の受け入れが加速し、社会的な信用、期待が高まっていると感じる。これらの対応、解決に向けて行政、企業、市民らと手を携えた受け入れ態勢に移行していきたい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

本事業の受託経験が長くあるため、当法人に対する社会的信用も得られている。そのため、チラシを使った周知については、協力先が年々増えており助かっている。さらにホームページには不動の情報を掲載し、SNSはスピードと柔軟性を持って周知し、その両者が連動して機能するよう周知を図っている。具体的には事業実施前の案内はおもにSNSを使って広報活動を行い、活動報告はホームページに掲載するなどである。なお、ホームページへの掲載を見て、しばらくした後、活動に関心をもって問い合わせを受けることもあるので、情報は案内としての鮮度だけでなく報告自体が周知の役目を果たすこともある。

(6) 改善点、今後の課題について

どの事業においても目的は定まっているが、目標をもう少し細かく設定していく必要があると考えた。

【日本語教室・教材作成】
生活者としては日本人との交流が欠かせない。また、社会の中で「Can-do」も大事な点である。いっぽう、就労の観点で言うと、日本語能力検定試験の取得級が採用基準の多くを占めているということがあり、「自立した生活ができる日本語力」と「日本社会が望む日本語力」がうまくかみ合わない。他事業と連携し、これらの段階を一連の流れをもって細かく設けていく(「来日直後のレベル(Can-do中心)」「これまでサバイバルで身につけた日本語をブラッシュアップするような、文法を学べるクラス」「就労に向けた準備のクラス」)

【人材育成】
「生活者としての外国人」を取り巻く環境を知るような講座を引き続き実施し、日本語教育の有資格者や通訳者が日本語教室のみならず、経験から様々な現場で活躍できると良い。それぞれの現場で日本人と外国人の橋渡し役として、またアドバイザー的な役目を担うこともできると思う。そのような強化が図れるような事業展開を見直していく。

(7) その他参考資料

チラシ

- 6月29日「外国人を取り巻く労働問題」
- 7月31日「やさし日本語の新しい世界」
- 8月17日「支援者のためのタガログ語教室」
- 9月21日「フィリピンの教育事情」
- 10月26日「給与明細の見方と確定申告」
- 1月25日「通訳・翻訳のスキルアップと心構え」
- 1月27日「外国人雇用基礎セミナー」

アンケート(日本語教室)

- 公共交通機関
- 施設利用
- ものづくり
- 進路
- 病院
- 防災
- 浜北クラス

アンケート(人材育成)

5月11日「定住フィリピン人のための生活情報」

7月31日「やさしい日本語の新しい世界」

8月3日「子ども支援について考える」

9月21日「フィリピンの教育事情」

11月9日「水害への備えと対応」

1月25日「通訳・翻訳のスキルアップと心構え」

1月27日「外国人雇用基礎セミナー」